

「柏崎の橋」

50 桜町橋（北条）

桜町橋は、北条四日町地域を流れる長鳥川にかかり、旧魚沼街道と北条駅前を結ぶ。この橋の名前は、北条駅付近をかつて「桜町」と呼んだことに由来する。桜町という地名は現在使われておらず詳細は不明だが、明治42年発行の『刈羽郡旧蹟志』には「北条氏在城当時に称したる古名なりと云ふ」と記されている。

桜町橋がいつ頃からあったのかはわからない。正徳5年（1715年）の北条村鑑帳には、土合橋・どどめき橋・岩清水橋・外城橋・諏訪橋・小坂橋の記載があるのみで桜町橋の名前はないため、当時この橋は存在しなかったか、もしくは名前も無いような小橋であったと思われる。しかし、明治30年10月に北越鉄道北条駅（停車場）が開設され、鉄道が輸送手段の主役となると状況が一変する。桜町橋を通り北条駅に接続する道路が北条停車場線として県道に認定されるなど、橋は北条村民にとって重要な存在となった。例えば、大正15年11月19日付の柏崎日報には、「秋の収穫時期、新米を農業倉庫に移送したいが、桜町



桜町橋

橋が架替工事のため通行できない。村民が甚だ困っている。」という内容の記事が掲載されている。

昔の長鳥川を知る人によれば、かつての川幅は「走って飛び越えられるくらい」の狭さであった。そのため大雨が降ると川は頻繁に氾濫し、付近の田地に被害を与えていた。この対策として、昭和40年代に河道の拡幅工事が行われると、橋も川幅に合わせて新たに建設された。それが現在の桜町橋である。

昭和47年5月の橋竣工からちょうど43年。拡幅工事の時にできた河川敷は、今でも地元の人々により草刈りなど整備が行われている。この河川敷や長鳥川とともに、橋は落ち着いた景観を作り出している。

◆北條村櫻町橋
本年度の災害復舊工事として起
工中の北條村櫻町橋は今回竣工
したので九月一日午後二時から
竣工渡り初め式を挙行し終つて
第一小学校に於いて盛大な祝賀
の宴をはるこまになつた

桜町橋竣工を伝える新聞記事
(越後タイムス
昭和11年8月23日号)



国土地理院発行 2万5千分の1地形図『塚野山』
(明治45年発行)を掲載

●参考にした本

- 『北条町史』(224 キタ) 北条町史編纂委員会 編
- 『きょう土北条町』(224 キタ) 北条町教育振興会 編
- 『柏崎文庫』(224 セキ) 関甲子次郎 著
- 『柏崎市史資料集 近世篇2上』(224 Kシヘ) 柏崎市史編さん委員会 編